

町おこしプラン「プロジェクトM」の実践 ～地域教材・地域人材の活用による授業改善～

社会 第3学年

輪島市立門前中学校・教諭

1 事例の概要

(1) ねらい

生徒が意欲的になり「学ぶ楽しさ」を感じるのは、初めてのことを知ったときや意外なことを知ったとき、生徒が中心となって問題が解決できたとき、自ら調べたことを表現・発表し、そのことを他者から認められたとき等が考えられる。講義式授業に陥らないように授業改善を図り、身近な現実のモノ・コトとの関わりで生徒の知的好奇心を喚起することを目指した。

(2) 生徒の実態

公民的な分野の学習については、教科書や教師の説明をそのまま受け入れる傾向があり、やや受け身の授業態度になっている。学んだことを実生活の中で活用することが十分でないため、疑似体験等を取り入れ学習を深めていく必要を感じた。過疎化については、町の課題として生徒なりに不安を感じている。一方で、町の政治に直接関わっていないため課題に対しての捉え方も弱い。

2 実践内容

(1) 単元全体の指導にあたって

「地方自治」は、地域社会のなかで身近にある具体例を多く取り上げながら、地方自治の仕組みや地方公共団体の仕事、そして住民の権利を学び、さらに地方自治への住民参加の大切さを考えさせる単元である。「地域教材」「地域人材」を活用できる単元と考えた。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 地域教材の活用による授業改善

門前町は県下でも有数の高齢社会であり、過疎化の進行も著しい。この身近な町の課題解決を図る地域学習は、まさしく地方自治の根本的な精神を学ぶことにも繋がる。そこで、「我が町をわが手で－プロジェクトM－」という町おこしの企画書を作成・発表し、町役場に提言することを通して地域に対しての関心を高め、自治意識の基礎を身につけさせたいと考えた。

町おこしプランの対象は、①特産物の生産、②観光の創造、③工業の創出・導入、④活力あるひとづくり・教育・文化、⑤生活環境施設の整備と充実、⑥その他の6分野である。班で協議をして課題を選択しアイデアを出させた。原稿づくりの際には、イラストを活用したプランニング、役場職員や住民アンケートを実施して活用すること、町おこしグループの方々にも聞き取りをすること、他地域の町おこしの実態をインターネットや書籍で調査することなどを指示した。また、何度も、単なる‘夢プラン’でなく町おこしとなるプランであることを意識させた。プランの発表は、一枚の模造紙にポスターとしてまとめるよう指示した。

② 地域人材の活用による授業改善

地域の人材との連携も地域教材を扱う際には欠かせないポイントである。町の「出前講座」を活用し、この単元では役場担当課職員との連携が可能であると考え、二度にわたって企画振興課よりゲストティーチャーを招き、町おこしの現状とレポートの感想を聞いた。

③ 評価の工夫

各班のレポート発表を聞いての感想を記入させ、相互評価を行った。

3 指導の実際 プロジェクトM（町おこしのプランを発表する・ゲストティーチャーの感想を聞く）

学習過程	学習活動と生徒の思考	支援○・評価◎
課題把握 5	◇発表者としての自覚を持ち、自分たちが製作した「町おこし」のアイデアを黒板に掲示し、発表の準備をする。	○グループで協力するよう示唆する。
課題解決 40	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇「町おこし」のプランを分かりやすく発表する <ul style="list-style-type: none"> ・1班7分の制限時間内で要点を整理して発表する ・声と姿勢に気をつけて発表する ・原稿の棒読みにならないように気をつける ・ポスターで表している部分を指して発表する </div> ◇各班の発表を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアの内容を他班と比べて聞く ・実現できたらどんな効果があるかを考えて聞く ・実現までにどんな課題があるかを考えて聞く ◇発表を聞いての質問や意見を出す ◇外部講師（ゲストティーチャー）の感想や意見を聞く	◎わかりやすく発表ができたか。 【評価方法－発表の観察】 ○発表内容のポイントを確認する ○適宜、外部講師から助言をもらう
まとめ 5	◇各レポートの感想を書いたものを各班に渡す。 レポートに貼り付ける。	

経済性、採算性の視点が不十分のため、夢に近いものや実現の難しいプランも見られたが、生徒の素直な感性が生かされた発表が多く見られた。すでに町が計画中のものと同様のことを考えた生徒もいて、楽しみながらも意欲的であった。「出前講座」として社会教育の立場から役場企画振興課職員に事前に門前町の開発について講演をしてもらった。発表会当日も、ゲストティーチャーにはアドバイザーとして参加してもらい講評を頂いた。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 地域教材の活用による授業改善

地域教材を活用したことが生徒の興味・関心を引き出し、地域教材活用の利点を達成することとなった。生徒の学ぶ意欲の向上に地域教材が有効であるということを実感した。

時間は限られており、どの単元も地域教材の活用ができるわけでもない。どの単元のどの過程でどのような社会的事象を地域教材として扱うか、地域に埋もれている新たな教材の掘り起こしや精選・重点化の吟味が必要である。また、総合的な学習の時間との連携も計画的に図り、年間計画に位置づけておく必要性を感じた。

(2) 地域人材の活用による授業改善

ゲストティーチャー（町役場企画振興課職員）の「皆さんのプランを町長に届けます」という言葉で、生徒はこの学習に充実感をえたようで、地域人材の活用は十分に効果があった。

(3) 評価の工夫

発表を聞いてのメモ用紙には、発表内容についての賞賛や発表方法に関する評価が書かれており発表生徒の自信につながった。生徒それぞれに自治意識の高揚は見られたが、活発な意見交換による「学び合い」の点ではまだまだ課題が残った。

D-1 レポート感想（相互評価）

（注）平成18年2月1日に門前町は輪島市と市町合併しており、本事例は合併前の実践である。